

## 待降節第1主日の説教

金 大烈 神父 2010年11月28日(日)

《神様をいつも意識しましょう。》

主の平和！

今日は昔の話を紹介したいと思います。2400年前古代ギリシャには有名な彫刻家たちが結構いました。その芸術家たちの作品が今も現存していることは皆様もご存知だと思います。

有名な芸術家のなかの一人にテイディアスという人がいました。その人は彫刻家でした。彼は何を彫刻しても心を込めて全力で、誰が見ていても見ていなくても手を抜かずに作品を作っていました。そのころギリシャではパルテノン神殿の上に立てる彫像が必要になりました。テイディアスの評価があまりにも高かったので政府はその仕事を彼に頼みました。テイディアスは政府から頼まれた彫刻を一生懸命心を込めてどんなに細部のところも丁寧に作っていました。ある程度完成してきた頃、政府の財務を担当する役人が彼のところに来ました。その人は彫刻の値段を値切ろう、安くさせようという気持ちで彼のところに来ました。そして皮肉な表情を浮かべて言いました。

「あなたはよくわかっているでしょう。この彫像はパルテノン神殿の上に立てられるんですよ。」

「はい、わかっています。」「それでは、パルテノンはアテネで一番高い丘の上にあることもわかっていますよね。この像はその一番高い丘の上にある神殿の上に立てられるものですよ。そしたらこの像がどの位小さく見えるかわかりますよね。」「はいわかっています。」「人々が見ようとしても前のほうが少し見えるだけでしょう？裏側は全然見えないでしょう。」「はいそうです。」

「そしたらなぜ後ろ側の彫刻代まで私は払わなければならないのでしょうか？前の方だけ払いますよ。もし、あなたがすべての彫刻代をもらおうとしたら恥ずかしい者になりますよ。」と言いました。

それを聞いたテイディアスはしばらく考えてから落ち着いて答えました。「あなたは誰にも見られないとおっしゃいましたが、いいえそうではありません。天の神様が見ていらっしゃいます。私はこの彫刻をしながら細かいところまでいつも神様がこれをご覧になっているという意識を持ってこの作業に集中しました。あなたが誰にも見られないと言われるその裏側にも私が心を込めて作業したことを、その手の動きさえ神様は全部ご存知です。」と言って、彫刻代を全部支払ってもらったという話です。そして2400年経っていても西洋の美術の歴史の中で立派なもの偉大な傑作として評価されているんだそうです。おもしろい話でしょう。

今日の福音(マタイ 24・37-44)も主なメッセージは「目を覚ましていなさい。」ということです。私たちの弱い部分では見えるところでは確かに正しい振る舞いや態度、言い方をしようとする。しかし、誰も見ない、闇のところでは何でもできる、今までやってこなかったことさえやってしまうという弱い部分があります。皆さん認めますか？私は認めます。例えば皆様の前では悪い言葉は使いません。しかし、司祭館でテレビのニュースを見ていて、悪いニュースが聞こえてきたら汚い言葉が口

から出ます。皆様もそうではないですか？ もしそうではないという人がいたらその人は立派な人格者ですね。でもおそらく大抵の人は見えないところでは悪い言葉が思わず出てしまうでしょう。しかし、私たちがいつも考えなければならないことは、神様はいつも私たちを見ているということ。

「目を覚ましていなさい」という言葉は簡単に言いますと「神様を意識しなさい」ということじゃないかと思います。神様を意識していたら悪口は唇まできて止まってしまうんじゃないかと思います。

「あの人が殺したいほど憎らしい」という気持ちになる前に、神様のこと、イエス様の十字架のことを考えたら、私は何の資格があって他人を裁こうとしているのかとすぐ反省ができるでしょう。これが信仰的な美德ではないかと思います。

皆様、四週間くらいの待降節を迎えました。この数週間の間、もう一度私の心の中で意味深い赤ちゃんのイエス様の誕生を迎え入れるために、特に神様のことを意識しながら過ごしていただきたい。皆様やってみましょう。神様はいつも私たちを見つめています。もっとやさしく言いますといつも私たちを守ろうとあせりながらご覧になっていらっしゃいます。「あゝ、この子はまた外れようとしているのか・・・」「この子はうまくいっているか・・・」と。私たちのすべてのことによって神様の幸、不幸が決まります。結局、神様が幸せになったら、そういう話が聞こえてきたら、私たちの生き方がうまくいっている証拠になると思います。

ありがとうございました。